α.STATION FM KYOTO 89.4

ROOTS OF DJ

α-STATION の担当者をして、「落語を聴いているみたいな(笑)」と言わしめる話法、というか話術というか話芸はご存じのとおり

後藤晃宏

現役を続けられるものが、音楽でよかった！

恒例だった「都雅都雅」での忘年会 X'mas パーティや、新風館でのイベントなどなど、α-STATIONも開局以来、本誌とは長いお付き合いだ。そして、そう、このシリーズは実はこの人のためにあると言ってもいい。むしろ、後藤晃宏さんのルーツ？ 知識が多すぎて1ページではムリでは？ 本誌でなくともそう思う。だが氏が選んだ3枚は…、「洋楽ツウの姉の影響で、9歳のときに初めて買ったレコードが Suzie Quatro、あと The Edger Winter Group に Cheap Trick！」。あぁ、ひとかどの人物はシンプルな場所に帰着する。「ポップ&キャッチー」の一言だ。滑稽なぐらいに分かりやすい！このコーナーは成功だ！ハイ、終わり！

旧知であったヒロ寺平さんに誘われ、'80年代終わりにラジオの世界へ。毎週金曜日には、11時間オンエアする番組を担当していた。「給料は全部 CD 代(笑)」

いや、終わっちゃいけない。3歳からピアノを始め、多感な10代に CAROL のコピーバンドも「何故かキーボードで(笑)」やった。当然GSも歌謡曲もアリ。

そして21歳、メタルバンド「RAJAS」でメジャーデビュー。「『東京殴り込みGIG』とか(笑)、関西のLOUDNESSやEARTH SHAKER、44MUGNAMが元気やった。いうても今のブリットポップなんかより当時のメタルははるかにポップ」。そう、同じメタルでも「DMC」を想像してはいけない。ポップの定義が必要なら、「おどるポンポコリン」のように「サラッと口ずさめる感じ」としよう。AC／DC や Motley Crue は、B.B. クイーンズと同類だったのだ！

その後、しばらく続いた「お金を貯めてはアメリカへ」という生活の中で衝撃を受けたのがブルースだ。「クーラー利いてるところでゴハン食べてたら、こういう音楽はできひんなぁ、と思ったねぇ」。そして3コードのシンプルな音種とホーンセクションの格好良さに惚れ、結成したのが「THE JANGO」という流れ。常に音楽とともに人生を歩み、α-STATIONには'96年にエントリー。

「以前のラジオは携帯やネットの役割を担ってた。トーク尺（長さ）はテレビの比じゃないから、リアリティ、つまり説得力がないと DJ はできません。だから喋らしてもらってるうちは、バンドもエレキもやってんとね。標準語や英語ができるわけちゃう、『現役 DJ 兼ミュージシャン』。生命線はそこですから」。

後藤さんにとって DJ とは演者。DJ ブースはステージであり、新しいも古いもない。メロディさえあれば、どんな音楽を出してもいい。逆説的に言えば、決定的に好きな音楽がない。だから「スティーヴィー・レイ・ヴォーンねぇ。カッコえぇねぇ。あ、特集しよ（笑）」と、取材中の他愛のない会話の中からも思いつく。

「現役として続けられるものが、音楽でよかった」。そう、演者でいるうちは、新しいオモチャを自慢するような、楽しげな後藤さんの声は、永遠にスピーカーから流れてくるだろう。

「'71年『QUATRO／Suzie Quatro』、ボク9歳。初めて買ったレコードやね。'74年『Shock Treatment／The Edger Winter Group』、ボク13歳、'77年『In Color ／Cheap Trick』、ボク16歳」な3枚

TWILIGHT AVENUE
(毎週日曜日19:00〜22:00)

週末の夜に「落ち着いた大人が楽しめる」懐かしい洋楽と、オールヒッツな邦楽をお届けするプログラム。音楽の話題はもちろん、当時の時事ネタを織り交ぜつつ、時には愉快に、時にはしっとりと展開。